

修士論文(要旨)  
2015年1月

付帯状況を表す「XヲYニ」に関する考察

指導 新屋映子 教授

言語教育研究科  
日本語教育専攻  
213J3025  
周 阳

Master's Thesis(Abstract)  
January 2015

The Japanese Adverbial Phrase "X Wo Y Ni" for Indicating Attendant  
Circumstances: Some Considerations

Zhou Yang  
213J3025

Master's Program in Japanese Language Education  
Graduate School of Language Education  
J.F.Oberlin University  
Thesis Supervisor: Teruko Shinya

# 目次

第1章	はじめに	1
1.1	研究背景	1
1.2	研究動機	1
第2章	先行研究	2
2.1	村木(1983A)	2
2.2	寺村(1983)	5
2.3	桑平(2007)	7
2.4	『日本文型辞典』(1998)	10
2.5	付帯状況をあらわす「XヲYニ」の定義	12
2.6	本研究の位置づけ	12
第3章	調査方法	13
3.1	調査① —データ収集方法 1-BCCWJ 中納言利用—	13
3.2	調査② —データ収集方法 2-BCCWJ 中納言利用—	13
3.3	アンケート調査	14
第4章	調査結果及び分析	15
4.1	調査①、調査②	15
4.2	結果分析	17
4.3	アンケート調査結果の分析	23
第5章	考察	23
5.1	「XヲYニ」の由来 —「XヲYニシテ」との関係—	23
5.1.1	「XヲYニ」の由来	23
5.1.2	「XヲYニ」と「XヲYニシテ」の意味上の差	24
5.2	「XヲYニ」形式と「XヲYニシテ」形式の使用率に関する考察	32
5.2.1	名詞Yが身体語彙の場合	32
5.2.2	名詞Yが身体語彙以外の場合	34
5.3	名詞Yを修飾する語に関する考察	38
第6章	まとめ	38
第7章	終わりに	39
	参考文献	
	参考URL	

## 第1章 はじめに

日本語文法ハンドブック』(白川編 2001) のなかにある「XをYに 一付帯状況を表す従属節に相当する表現―」という節を読んで、「XをYに」という表現形式に興味を持つようになった。しかし、中国語や日本語の論文を探すと、意外とこの表現形式に関する説明はまだ不足していることに気づき、さらにこの表現形式への研究が必要であり、それらを解明しようと思うようになった。

## 第2章 先行研究

本章では、村木新次郎(1983a)、寺村秀夫(1983)、桑平とみ子(2007)について述べる。(内容省略)

## 第3章 調査方法

まずは、調査①で BCCWJ(現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言 (以下「中納言」と略す))を利用して、「XヲYニ」と「XヲYニシテ」の使用数量、使用比率を計算し、その結果をもって、「XヲYニ」の使用傾向、及び「XヲYニ」と「XヲYニシテ」の関係を考察する。

また、調査②で名詞Yに対する連体修飾の有無、連体修飾語句があるとすればどのような表現形式かを調査するために、BCCWJで検索した。

最後に「XヲYニ」に後続する「シテ」の有無によって、意味上、あるいはニュアンスの違いがあるかどうかを解明するため、アンケート調査を行った。

## 第4章 調査結果及び分析

本章では調査①、調査②とアンケート調査の結果を統計してまとめた。調査①により 27423 件の例文が見つかり、その中から、研究対象となる 12430 件の例文を得た。その例文を「「XヲYニ」における名詞Y一覧」、「名詞Y」、「XヲYニ」、「XヲYニシテ」の使用度数及び比率」、「『分類語彙表』に基づく名詞Yの大分類」、「『分類語彙表』に基づく名詞Yの小分類」に分けて統計した。

調査②(名詞Yにかかる修飾句に関する調査)から得た例文を載せた。

最後に、アンケート調査結果をまとめた。

## 第5章 考察

5.1 では、「XヲYニ」の由来、及び「XヲYニシテ」との関係に関して論じる。まず村木(1983a)の「「XヲYニ」の言いまわしは、「発生的に」たぶん「XヲYニシテ」という従属句の「シテ」が省略されてできたものである。「シテ」の有無によって一般に意味の差は生じない」(p. 268)という論説に基本的に賛成したうえで、「…を尻目に」という表現形式はそうした説に合致しないことを取り上げて、「XヲYニ」がすべて「XヲYニシテ」からできたものと断定することはできないと主張する。

また実例とアンケート調査結果をもって、「XヲYニ」表現形式より、「XヲYニシテ」のほうが「意図性」、または「臨時性」が感じられると主張する。

5.2 では「XヲYニ」形式と「XヲYニシテ」形式の使用率に関して考察した。名詞Yを「身体語彙」と「身体語彙以外の名詞」にわけて論じる。結論は以下の通りである。

名詞Yが「身体語彙」の場合は

- ① 抽象化した表現の場合は、「XヲYニシテ」形式より「XヲYニ」形式のほうが多く使われている。
- ② 意図性、あるいは継起関係などの潜在的な意味がある場合は、「XヲYニ」形式より「XヲYニシテ形式」のほうがふさわしい。
- ③ 具体的な表現で、意図性がない場合は、日常において頻繁に使用されると、「XヲYニシテ」形式を簡略して「XヲYニ」形式になる可能性が高い。

名詞Yが「身体語彙」以外の場合は

- ④ 高度に定着した表現形式は、「XヲYニ」形式はひとかたまりとして使用されることが多く存在する。さらに、定着したことによって、「XヲYニシテ」形式に入れ替えると、不自然な文になってしまう可能性がある。
- ⑤ 「XヲYニシテ」形式と「XヲYニ」形式が入れ替え可能な名詞のうち、本来「計画性」という意味要素を含む名詞の場合は、「XヲYニ」形式のほうが多く使用されている。

また、高度に定着した表現形式や「文法化」などにも少し触れた。

最後に名詞Yを修飾する語に関して考察した。例文数が少ないため、どのような傾向があると明確には言えないが、修飾を受けられる名詞Yは、基本的に属性を表す名詞が多いことをと主張する。

## 第6章 まとめ

本研究の論点をまとめた。

## 第7章 終わりに

本研究の不足点や今後の課題を述べる。

## 参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田 敏弘(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 井筒勝信(2001)「構文文法に基づく日本語の統語分析『～を～に』構文の場合」『北海道教育大学紀要人文科学・社会科学編』51-2 北海道教育大学 pp. 53-65
- 奥田靖雄(1983)「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」「を格の形をとる名詞と動詞とのくみあわせ」「に格の名詞と動詞とのくみあわせ」『日本語文法・連語論(資料編)』むぎ書房 pp. 281-323
- 金子比呂子(1990)『『して』からみた『N1をN2にして』の位置付けかた』『日本語学校論集』17 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校 pp. 17-39
- 国立国語研究所(2003)『分類語彙表増補改訂版』大日本図書
- 田中寛(2004)『日本語複文表現の研究-接続と叙述の構造』白帝社
- 田中寛(2010)「<XをYに>の意味と形態上の諸問題」『複合辞からみた日本語文法の研究』ひつじ書房 pp. 132-134
- 桑平とみ子(2007)『『する』と『なる』の省略構文の一考察』久野暲、牧野成一、スーザン・G・ストラウス(編)『Aspect of Linguistics: In Honor of Noriko Akatsuka 言語学の諸相』くろしお出版 pp. 78-76
- グループ・ジャマシイ編著(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版
- 寺村秀夫(1983)『『付帯状況』表現の成立の条件—『XヲYニ…スル』という文型をめぐって』『日本語学』2 明治書房 pp. 38-46.
- 寺村秀夫(1992)『寺村秀夫論文集 I-日本語文法編-』くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語文法(改訂版)』くろしお出版
- 村木新次郎(1982a)「外来語と機能動詞」『武蔵野大学人文学会雑誌』13-4 武蔵野大学 pp. 211-226
- 村木新次郎(1982b)「動詞の結合能力をめぐって」『日本語教育』47 日本語教育学会 pp. 13-32
- 村木新次郎(1983a)『『地図をたよりに、人をたずねる』という言い方』渡辺実(編)『副用語の研究』明治書院 pp. 267-290
- 村木新次郎(1983b)「日本語の後置詞をめぐって」『日本語学習與研究』1-9 北京・対外貿易学院 pp. 9-23
- 山泉実(2013)「非飽和名詞とそのパラメータの値」西山祐司(編)『名詞句の世界』ひつじ書房 pp. 11-25
- 山田昌史(2010)『『AをBに』構文の統語構造:『して』省略のメカニズム』『Scientific approaches to language』9, 神田外国語大学 pp. 109-132

## 参考 URL

「BCCWJ(中納言)」

<<https://chunagon.ninjal.ac.jp>> (2014/12/13 最終検索)

「BCCWJ(小納言)」

<[http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/search\\_form](http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/search_form)> (2014/12/13 最終検索)